

見えないものの 見える化（6）

兵庫県立芦屋特別支援学校

平成30年11月28日(水)

地支セン通信 No. 13

「体調カード」

身体のごことは、親子といえども別なので、よくわからないんですよ。自閉症だからというより「知的障害があるから、表現を知らないだろう」と私は考えたので、その状態のときに、こちらから表現したり、その状態の絵カードを見せることをしてきました。

車酔いでもどしたときに、「ゲーでたね」と何度も知らせるとか。遠足から帰っていて、ぐったりしているときに「疲れたね～」と大きめに伝える。体調良さそうなときに「元気だね！」と表現する。

「熱がある」も「イライラしてる」もそうですよ。こちらが表現、しかも「見える形」にしないことには、その状態を、そういう言葉だっただけで、最初は知らないのです。

次第に、カードなどで聞いて体調を確認していました。「しんどい？大丈夫？」「熱い？寒い？」「痛くない、少し痛い、痛い、すごく痛い」。

大きくなってきたら、こちらが表現の先回りをしないようになると、自分から体調を伝えてくれるようになって助かりました。いつまでも察しないといけないのであれば、お互いに窮屈でしょうから。

引用「自閉症のもりもとさん～その世界から見えてくるもの～」
株式会社 おめでとう 文：もりもと／奥平綾子

そんな時の「見える化」アイテムは…？



（左）よく使う体調を一覧にしたもの

（右）リングにまとめていつでもどこでも使用できるようにしたもの



※カードの絵は、「ドロップス」=視覚支援シンボル集から使用しています。



「痛い！」と訴えてきたときに、どのくらい痛いかを見える形にしたもの。表現が難しいことを数値化することで伝えることができ、伝わった経験を積むことができる。